



ガラスに八雲塗を施した「八雲びいどろ」(左)金箔を貼り、その上に漆を塗り重ねた「八雲白檀琥珀」(右)八雲びいどろは女性に、八雲白檀琥珀は男性に人気だという



戦前の八雲塗も並べられ、その感性・丁寧な仕事は古さを感じさせない



手ごろな鏡や三段割子の器、昭和以前の物や新しい意匠の器など店頭で並ぶ商品が八雲塗の歴史を物語る

塗の最大の特徴である経年変化を楽しんでもらえるよう、絵の代わりに金箔を使ったんです。スタイリッシュなフォルムと、年月と共に輝きを増す器は発売開始以来、高い人気を誇っている。

「八雲塗」の技術を生かし新商品開発にも次々挑戦

コロナ禍中には、漆塗りの手間が木製器の3〜4倍かかるガラスに挑戦。透明な素材を生かし、内側の絵を窓から見せながら外の絵との融合を楽しむ「八雲びいどろ」シリーズは、特に女性を中心に好評で、注文に生産が追い付かないほどだという。

昨年は、大手紙製品メーカーの依頼を受けて海外向けの万年筆を制作。SNSの写真を漆で再現し、1本1本絵柄がすべて異なるのが特徴だ。隠岐・海士町に散骨場を作った葬儀社に頼まれ、遺骨アクセサリーにも挑戦。「人がやっていないことに挑まなくちゃね。箸と器に縛られていたら需要は限定的。八雲塗という技術も売ること主眼

を置くようにしています」。若い人にも漆器に親しみを抱いてもらおうと21年、店舗3階にあった工房を1階の展示スペース奥に移転。希望に応じてワークショップも開催し、クラフトツーリズムの受け入れも始めた。松江市は伝統工芸などの職人を集めた「職人商店街」を市の中心部に整備する事業を進めており、同店の取り組みも賑わい再生の一環として注目されている。

一方、八雲塗に興味を持つ若者も少しずつ増え始めている。昨年には30歳代の女性が増わり、今春には専門学校を卒業したばかりの女性が職人としての一歩を踏み出す予定だ。「八雲塗の魅力は、個々の



PR動画公開中!



時と共に魅力が際立つ美しい漆器 伝統技術生かし斬新なデザインも

株式会社 山本漆器店 ● 代表取締役 山本 一成



深みのある黒色と濡れたような輝きを持つ漆器「八雲塗」。色漆や金銀粉などで文様を描いた後、半透明の透漆をかけて仕上げられ、使えば使うほど魅力が際立っていく逸品だ。

約150年前、松江藩お抱えの籠塗り職人が国内外の漆器を研究し、美しい艶を出す「呂色仕上げ」を考案したのが始まり。日本最古の和歌とされる「八雲立つ」にちなんで名付けられた。山本漆器店の初代山本喜三郎が1890年、職人を集めて創業。経年変化を楽しめる美しい漆器は創業時から全国各地で好評を博した。

1968年に米子支店を開店、翌年には3代目が株式会社化を実現するなど、需要の高まりと共に事業を拡大。当時は同店だけで20人弱の職人を抱え、八雲塗を手掛ける店も松江市内を中心に8軒あった。しかし高度経済成長期が終焉を迎え、大阪万博後の観光ブームが一段落すると、売れ行きも次第に右肩下がりになり、東京一極集中の影響で若

感性と時代のニーズを作品に吹き込める点。特に創作意欲の高い女性の関心が高いようです」と山本社長。スピードと正確性が問われる。職人の側面だけでなく、作家として独創的なデザインや器づくりに挑める点が人気だという。

蕎麦好きだったことでも知

者の流出も加速し、バブル崩壊後には同店の職人はわずか3人となった。

そんな時期に帰郷して4代目を継承したのが、山本一成社長(56)だ。現状を少しでも打破しようと、山本社長は県内外へと積極的に営業に向き、情報発信に努めた。「需要を待っているだけではだめ。掘り起こさなくちゃ」。テレビや新聞などの取材依頼は決して断ることなく、WEBマガジンも発行。毎月のように大阪や名古屋、首都圏などへと足を運んだ。

2010年、顧客の声をきっかけの一つのヒット商品が誕生する。生漆を用いて金箔を器の全面に貼った後、半透明の鉛色をした透漆を塗り重ねた「八雲白檀琥珀」だ。使いこもほどに下に敷き詰めた金箔が色鮮やかに発色し、美しさを増してくるのが魅力だ。「従来八雲塗の漆器は花鳥風月の文様が描かれていたが、「無地はないのか」というお声を結構多く頂きました。ただ塗るだけでは他の産地と区別が付きません。八雲

られる松平不昧公が愛用した器の再現も実現。2月11日の「出雲そばの日」から市内10店舗のそば店で楽しめる予定だ。

「八雲塗を絶やさぬために最も大事なのは職人の存在。需要喚起や情報発信、労働環境改善などに努めていきたい」と語ってくれた。



八雲塗の多彩な色は、色粉を漆に混ぜ合わせたもの職人がひとつずつ丁寧に、かつ早く同一に細筆を使った繊細な絵柄が次々と描かれていく

経営理念

茶の湯の文化に育まれた伝統工芸「八雲塗」の

- ① 伝統を固く守り、後世へ伝えます
- ② 伝統を基に更なる「八雲塗」の向上に努めます
- ③ 伝統を通じて、地域経済、観光文化の発展に寄与します



松江大橋の北、観光客も多く訪れる京店商店街に建つ八雲塗やま本

株式会社山本漆器店
〒690-0843 松江市末次本町45
TEL0852-23-2525
FAX0852-23-2528
営業 10:00~19:00
休 11月1日~1月3日
https://www.yakumonuri.jp/

最新情報は
こちらから

